

厚岸臨海実験所の紹介

1931年に北海道大学理学部附属として創設された、わが国でただ一つの親潮の直接の影響を受けた寒流系海洋生物の実験所で、生態学の研究と大学院および学部学生の教育を行っています。当実験所は、厚岸道立自然公園の中にあり、愛冠岬を含む約40万平方メートルの敷地を有し厚岸湾に面した道東の典型的な風景と自然豊かな場所にあります。

☆自然史博物館のご案内☆

開館期間 5月1日～10月31日
開館時間 9:00～16:30
休館日 毎週月曜日と火曜日(祝祭日を除く)
入館料金 無料

〒088-1113 北海道厚岸郡厚岸町愛冠
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
電話：0153-52-2056



北海道大学シンボルマーク



愛冠自然史博物館は、臨海実験所の研究と教育に資する目的で設置されたもので、昭和の初期からの古い伝統を持っています。建物は1989年に改築され、脊椎動物、無脊椎動物や化石、鉱物など約2,000点の標本を常時、展示しています。また、そのほかに1,000点あまりの未整理標本があります。



【ゼニガタアザラシ】
黒地に白の錢形の模様がある。北海道の襟裳岬を南限として分布、周年道東の岩場に生息する。
(愛冠岬沖の大黒島にて)



ノビネチドリ

キクバクワガタ



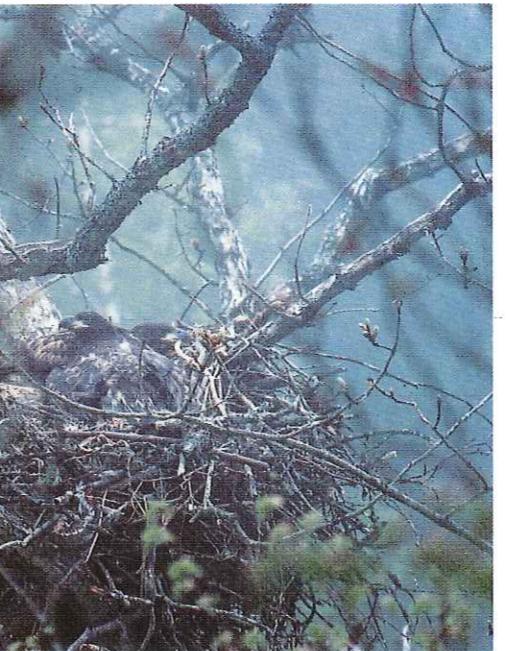
コンロンソウ

エゾオオサクラソウ

自然史博物館周辺のアイカッペ自然林には、キタキツネ、エゾシカ、エゾリスなどの哺乳類、ミヤマカケス、ゴジュウカラ、オオルリ、コマドリなどの鳥類や多くの昆虫がすみ、エゾエンゴサク・オオバナノエンレイソウ・エゾオオサクラソウ・コンロンソウ・キクバクワガタなど季節には多くの花を咲かせています。

【巣立ち直前のオジロワシ】

北海道東の沿岸に棲み、大木に営巣し、魚・小動物・水鳥などを主食とする。冬鳥としてアジア東北部から日本に渡ってくるが、道東では留鳥として繁殖している。沿岸の開発に追われて減少が心配されている。→



展示のようす



展示室入口▲



化石コーナー▲



ひぐまのはく製▲



エゾシカのはく製▲



牡蠣のはく製▲



猛禽類のはく製▲



魚類コーナー▲



鳥類コーナー▲